



丘一面に萌える青

“ネモフィラ”が見頃です。

国営ひたち海浜公園の「みはらしの丘」3・5ヘクタールで、450万本のネモフィラが見頃を迎えています。春のフラワーリレー『Flowering2012』もこよこよ佳境、本日4月30日(月・祝)より『ネモフィラハーモニー』が始まりました。現在、ネモフィラのほか、開花が遅れていたチューリップが見頃、スイセンも遅咲き品種を中心に開花中です。

昨年的大型連休期間(平成23年4月29日～5月8日)は、東日本大震災後の観光自粛ムード、団体ツアーのキャンセル、さ



2012年4月29日撮影

らには天候にもなかなか恵まれず、入園者数が前年比で32%まで落ち込みました。しかし今年は、初日の28日(土)が13、995人、29(日)が39、180人と好調なスタートを切っています。※大型連休期間の入園者数詳細については、後日ご報告いたします。

ネモフィラはこの大型連休中がまさに見頃です。規模、花数ともに日本一の景観をご覧ください。

お問い合わせ先

国営ひたち海浜公園 ひたち公園管理センター
広報宣伝チーム 青木・服部・和光
〒312-0012 茨城県ひたちなか市馬渡字大沼 605-4
TEL: 029-265-9001 (報道関係者の方は 9004・9005)
FAX: 029-265-9339
<http://www.hitachikaihin.go.jp>
“ひたち海浜公園”で検索



青の上を歩く

年々認知度が向上し、一年で最も多くの人々がネモフィラの見頃時期に訪れます。しかし、今でこそ私たち海浜公園の主役として定着したこの小さな青い花は、植栽を始めた当時は、寄せ植えなどで使われる脇役でした。

2002年から4年間は、未開園区域を期間限定で公開する形で、植栽面積1・5ヘクタールから開始しました。現在、青色の“インシグニスブルー”という1品種のみを植栽していますが、当初は白色の“マクラータ”という品種を混ぜていました。しかし、広大な面積で白は映えないばかりでなく、白い“マクラータ”の勢いが強く、青い“インシグニスブルー”が押されてしまうという状況が発生しました。一度播いた“マクラータ”を取り除くのはなかなか難しく、また、霜でやられた年もありました。様々な困難を乗り越え、空と海と溶け合う青い景色をようやく実現出来たのは、8年を経た2009年のことです。

そして、11年目を迎える「みはらしの丘」のネモフィラが、今年も丘一面に広がっています。見渡す限りの青い景色は、小さな小さな無数の花が寄り添い合って創り出したもの。潮風に吹かれる可憐な姿は、海を漂う小波のようで、空をたゆたう雲のようにも見えます。新緑の季節に添える淡い青色が、丘を優しく包み込んでいます。



Nemophila another story



ネモフィラとはハゼリソウ科の一年草で、北米（カリフォルニア）原産の花、ひたち海浜公園では空色に咲く「インシグニスブルー」という品種を咲かせています。その可愛い花色・花姿から英名で「ベイビーブルーアイズ」（赤ちゃんの青い瞳）と呼ばれています。



“ネモフィラ”はギリシャ語の nemos（小森）と phileo（愛する）が組み合わさった言葉で、森の周辺に生息していることが多いところから来ています。和名を“瑠璃唐草（るりからくさ）”と言い、日本には1877年（明治10年）に渡来しました。



ネモフィラのイメージは、寄せ植えなどに使われる脇役の花。しかし、この小さな花が丘一面に広がると、幻想的で壮大な景観を創り出します。今こそひたち海浜公園の主役として定着しましたが、ここに至るまで様々な試行錯誤がありました。

花いっぱいの丘になるまで

みはらしの丘は、米軍の水戸射爆撃場のメインの的があった場所に人工的に整備された高さが30mの丘です。使用した残土は大型トラック20万台分、約25年かかって造成しました。丘には3つの頂上があり、一番高い頂上は標高58mで、ひたちなか市の最高地点です。今ではネモフィラやコキアの名勝となっています。



射爆撃場での演習風景



建設中に発掘された不発弾



米軍の射爆撃場のメインの的

昭和53年 空撮



造成工事中の「みはらしの丘」

平成13年 空撮



丘一面にネモフィラが咲く
「みはらしの丘」

平成23年5月撮影（観覧車から）